

研究課題 (テーマ)		富山県立大学 第30回ダ・ヴィンチ祭 2025 の開催	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	教養教育センター	准教授	鈴木 浩司 (ダ・ヴィンチ祭実行委員会委員長)
研究結果の概要			
<p>未来の社会を担う子どもたち (おもに小学生高学年を対象) に科学の面白さと正しい理解を伝えること、また、地域に根ざした県立大を一般の方々に見ていただくことを目的にダ・ヴィンチ祭 2025 を開催した。特に今回は第30回の記念大会ということもあり、小学校低学年・未就学児を対象にした特別企画も実施し、大盛況のうちに終えることができた。</p> <p><実施状況></p> <p>日時は令和7年8月2日(土)10:00~15:00、富山県立大学射水キャンパス構内を会場として行った。来場者数は約2000人で、過去最も多かったであろうコロナ禍前の令和元年の約2100人には及ばなかったが、コロナ禍以降では最も多くなった。特別企画「わくわく・どきどきサイエンスショー」(事前予約制)は午前と午後の2回行われ、合計550人(保護者含む)の子どもたちに楽しんでいただけた。従来の教員・学生等による企画出展数は、①おもしろ科学縁日(予約なしで参加できる実験・体験型イベント)10件、②大学探検隊(研究室を開放し、実験装置などの展示・実演)19件、③子ども制作教室(事前予約制の制作教室)19件、④その他5件で、合計54件となり、昨年の43件を上回った。特別企画および教員・学生による企画に参加した人数の合計は延べ6020人で、昨年の5865人をやや上回った。事前予約が必要な子ども科学制作教室は応募多数の場合は抽選となり、およそ549人の枠に約2700人の応募があった。</p> <p><実施の成果></p> <p>来場していただいた方々(保護者)にWebアンケートをお願いしており93件の回答があった。来場した子ども(保護者以外)のうち、未就学児は20%、小学生は76%(合計96%)であった。来場の目的も、「子ども自身の科学への興味」、「子どもに科学に興味を持ってほしい」という項目が合わせて74%であり、子ども・保護者ともに科学体験に興味を持っていることが分かった。また、県立大学に興味があったという回答も14%あった。特別企画について、楽しめたかどうかを5段階で評価してもらったところ、87%が5(楽しめた)と回答した。総じてダ・ヴィンチ祭2025は成功であったと言えるだろう。一方で、アンケートには様々なご意見をいただいた。それらのご意見を次年度以降の参考にしたい。特に近年の暑さ対策は課題であり、十分な検討を重ねて安全対策を施したうえで実施していく必要がある。</p>			
今後の展開			
<p>今年のダ・ヴィンチ祭の来場者数は概ねコロナ禍前の状態になった。しかし、物価高騰の影響もあって以前より運営費がかさんでおり、より効率的な実施方法を検討していかなければならないだろう。なおかつ少子化の現状を踏まえて、より多くの子どもたちに参加してもらうように積極的に広報等に努め、これまで以上により多くの子供たちに科学に親しんでもらうよう実施する。</p>			